

工夫を凝らした授業動画と学習計画表で、 子どもの自律的な学びを支える

埼玉県 戸田市立戸田第二小学校

埼玉県戸田市立戸田第二小学校は、突然の臨時休業に戸惑いつつ、4月には授業動画の作成に着手。5月からは学習計画表を配布し、授業動画とアウトプットを組み合わせた学習支援を開始した。子どもが自分で学べるように工夫を凝らし、自律的な学びへと導いた様子を、同校の保護者と児童の話も交えながら振り返る。



◎ 1952(昭和27)年開校。市内最大級の大規模校。文部科学省、埼玉県、戸田市から様々な研究指定を受け、カリキュラム・マネジメント、学び合い、英語教育、ICT活用などを研究。

校長 山根淳一先生
児童数 約1,000人
学級数 33学級（うち特別支援学級4）
電話 048-442-2675
URL <https://www.toda-c.ed.jp/site/toda2-e/>



校長
山根淳一
やまね・じゅんいち

国立大学附属小学校教諭、埼玉県教育局指導主事、戸田市教育委員会指導課長、戸田市立新曾北小学校校長を経て、2020年度から現職。

臨時休業決定の当初

「つなぐ、つむぐ」を 新年度の合い言葉に

教員を始めとする学校関係者、子どもや保護者に大きな衝撃を与えた、国からの臨時休業要請。埼玉県戸田市教育委員会（以下、市教委）は、準備期間が必要だとして、休業開始日を2日間延期し、3月4日とした。戸田市立戸田第二小学校の山根淳一校長は、当時勤務していた前任校での様子を次のように振り返る。

「予想もしていなかった事態に、学校中が驚きました。できるだけ多くの家庭学習教材を子どもに渡そうと、朝から印刷機をフル稼働させ、学習プリントなどを用意しました」

戸田第二小学校でも、漢字や計算の課題、副教材の活用法や学習用のウェブサイトなどを記したプリントを配布した。

6年生と3年生を通わせる保護者の声（以下、同）「突然の休業に戸惑

うばかりで、マスコミが何度も言う『学びを止めない』の言葉がただ不安でした。学校から紹介されたオンライン学習に取り組ませる余裕はなく、とにかくたくさんプリントをやらせようと焦っていました」

3月24日には規模を縮小して卒業式を行い、新年度からの学校再開の準備を進めていた。しかし、緊急事態宣言の発令が濃厚となった4月6日、市教委は臨時休業延長を決定した。

「教育長からは、『力のある学校づくりを目指してほしい』と言われました。外出自粛による経済活動への影響から、今後、経済的に厳しい家庭が出てくるのが予想されたため、そうした状況を乗り越えられるような教育活動をしなければならないという思いを抱きました」（山根校長）

山根校長は、2020年度の合い言葉を「つなぐ、つむぐ」にすることを職員会議で提案した。

「臨時休業を経験し、子ども、教員、家庭、地域がつながってこそ教育活

動は成果を生み、子どもたちが輝くのだと改めて気づきました。前年度のうちに、研究主題は『つむぐ』に決定していましたが、『今は皆をつなぐことが大事であり、それが新しい学びをつむぐことにつながる』と教員に提案したところ、賛同してくれました」

臨時休業の延長決定後

オフライン・オンラインで、 家庭と学校をつなぐ

臨時休業期間に「つなぐ、つむぐ」手段として活用したのが、ICTだ。同校はICT教育を推進しており、教員も子どもも機器の操作に慣れていて、休業が長引く中、ICTを活用して担任が子どもを見取る仕組みがつかれないかと考え、4月9日にはオンライン会議ツールの活用を前提とした研修を実施した。

市教委もオンライン学習の実施を検討し、4月15日の臨時校長会では、4月最終週を目標に各校が作成した

図1 臨時休業要請から学校再開までの国、戸田市教育委員会、戸田第二小学校の主な動き

	国	戸田市教育委員会	戸田第二小学校
2/27	全国の小・中学校、高校、特別支援学校に3/2からの臨時休業を要請		
2/28		3/4からの臨時休業を決定	
3/4			臨時休業に入る
4/2			2020年度の合い言葉を「つなぐ、つむぐ」に決定
4/6		5/6までの臨時休業延長を決定	
4/7	7都府県に緊急事態宣言を発令	市教委と学校の連名で、保護者に家庭のICT	環境状況を確認するオンライン調査を実施
4/8-10			教科書等を配布(保護者来校による手渡し)
4/13-16		ICT活用に係るオンライン研修会を実施(参加者計194人)	
4/15		4月最終週を目標にオンライン学習の実施を各校に求める。全児童生徒分のオンラインツールのアカウントを用意	臨時校長会后、運営委員会を開き、オンライン学習の趣旨等を伝え、動画作成に着手
4/16	全国に緊急事態宣言を拡大		
4/21	臨時休業中の学習の保障等について通知		4/20-5/1分の課題をホームページ上で公開
4/22-27		保護者にICTを活用した教育活動の実施を伝える	「オンライン学習家庭用手順書」、動画配信ツールのアカウント等を配布(保護者来校による手渡し)
4/27			授業動画の配信を開始
4/28	改正著作権法施行	5/31までの臨時休業延長を決定。市内の小学校でオンライン学習を開始	
4/30			オンライン学級会の実施を検討
5/4	5月末までの緊急事態宣言延長を決定		
5/11-12			学習計画表等を配布(保護者来校による手渡し)
5/13		アカウント管理に係るオンライン研修会を実施	全学年で授業動画を使った学習支援を開始
5/14	39県の緊急事態宣言を解除		
5/19		オンライン学習に関する情報交換に係るオンライン研修を実施	
5/25	全国の緊急事態宣言を解除		
5/26		6/1からの学校再開を決定	
6/1			12日まで分散登校とし、授業と家庭学習(授業動画を使った学習等)を組み合わせた教育活動を実施
6/2			入学式を2回に分けて実施
6/15			通常登校を再開

* 文部科学省ウェブサイト、戸田市教育委員会ウェブサイト、戸田第二小学校提供資料、取材を基に編集部で作成。

動画を配信する方針が伝えられた。そして同時期に、オンラインによるICT活用の研修会を実施するなど、学校現場をバックアップした。

「本校では、96.2%の家庭がインターネットに接続できる端末を持っていました。ただ、端末を持たない家庭やデータ通信量が従量課金制の家庭もあることから、オンラインとオフラインを組み合わせ家庭と学校をつなぎ、子どもの学びを支えようとなりました」(山根校長)

オンラインでは、授業動画を使った学習支援やオンラインドリルによる個別学習、オンライン会議ツールを利用した「学級の時間 TMC (Teacher Meets Children)」を実施。一方、オフラインでは、子どもの下駄箱に家

庭への配布物を置き、保護者が都合のよい時に取りに行ける「下駄箱郵便局」や、学校図書への貸し出し、スクールカウンセラーとの面談を用意した。

そして、4月下旬に保護者に来校してもらい、市教委作成の「オンライン学習家庭用手順書」や動画配信ツールのアカウントなどを配布した。同手順書は、市教委から支給されたデータの1枚目に学校名を入力して、印刷したものだった。

保護者の声「手順書には、操作を間違えやすい箇所などが画像とともに説明されていました。3年生の子どもでもそれを見れば1人で操作ができ、保護者の間でも『分かりやすい』と評判でした」

授業動画の作成

2~3人のチームを組み、授業動画の作成に着手

授業動画を使った学習支援をどのように進めたのか。4月15日の臨時校長会の後すぐ、山根校長は教員に授業動画を使った学習支援を行う意向を伝えた。併せて、市教委の方針として、動画は編集をせずに1回の撮影でよいことや、教員が動画に登場する必要のないこと、1つの動画は15分程度とし、分かりやすさを優先してほしいことなどを説明した。

「『まずは、担任や学年の紹介から始めましょう』と呼びかけました。授業動画は、その先のステップでよいことを示しました」(山根校長)

教員は未経験の動画作成に戸惑いと不安を感じながらも、各学年で2～3人のチームを結成し、動き始めた。当時、教員は3分の1ずつの交代出勤としていたため、チームのメンバーの出勤日が同一となるように調整。市教委から学校所有のタブレット端末の持ち帰りが許可されたため、在宅勤務時にも作業を進めた。そして、オンライン会議ツールによる職員集会や学年会で、動画作成の状況も報告し、各自の工夫を共有した。

1週間後には各学年で数本ずつの動画が完成し、4月27日から順次配信。改正著作権法が施行された4月28日以降は、教科書などを用いた授業動画の作成が本格的に進められた。

授業動画を使った学習支援

動画とアウトプットを組み合わせ子どもの学習意欲を高める

5月には、子どもが計画的に学習を進められるよう、1週間単位の学習計画表(図2)を全学年に配布した。1コマ45分間とし、午前・午後各3コマを設定。1～4時間目は、実技を含む全教科と、英語、道徳、プログラミング(高学年のみ)の学習を割り振り、5・6時間目(1年生は5時間目のみ)は自主学習とした。

「学習計画表は、教務主任がひな形を作成し、各学年で詳細な計画を立てました。自主学習を組み込んだのは、本校が行っている自分で課題を決めて取り組む学習を、家庭でも実践してほしいと考えたからです」(山根校長)

保護者の声「学習計画表に書かれていた『教科書以外のものを使ってかまいません』『自分のペースで取り組みましょう』という発信が、子どもに響いたようです。それをきっかけに、毎日の学びに主体性が見られるようになりました」

図2 学習計画表(例)と見方

学習計画表の見方

Google Meetを使い、担任と子供(たち)が、オンラインで会話し(家庭結束が図られていますので、兄弟関係を分散化するために、学年をずらして行います)。「TMC」はテスト活用として進め、参加は任意です。ねらいは、子供たちの健康状態を確認すること、子供と担任とのつながりを増やすことです。

1～4時間目は、「時間割表」と同様な生活を目標し、学校が提示しています。45分を1コマとし、休憩15分のサイクルで生活していくリズムをつくります。

5、6時間目は、戸二小で全体で取り組んでいる「自学(自主学習) <課題を自分で決めて取り組む学習>をします。自分で1週間の計画を書き込めるようになります。(1年生は5時間目までというように、学年に応じて設定しています。)

教科書のページを表しています。動画が見られない時でも、教科書で自学ができるようになっています。

学習が終了したら、○をつけたり、ご家庭で用意したシールなどを貼ったりして、チェックできるようにしています。自分の学習した足跡が見える化できるようにしています。

「動画」と記載のあるところは、ミライシードおよびGoogle Classroomに動画を配信しています。学習の始まりに見ていただくことが有効です。動画については、いつでも視聴が可能です。ご家庭で指定の時間に見ることが難しい場合には時間をずらして視聴いただけます。

5月13日から通常登校が始まるまでの5週間、教科書の単元名と該当ページ、授業動画の有無を明記した1週間単位の学習計画表を全学年で作成・配布。低学年では、保護者がサポートしやすいよう、学習内容を詳細に記した。チェック欄も設けて、達成状況を可視化。午後の自主学習は、子どもが自分で1週間の計画を立てて取り組むように伝えた。

* 戸田第二小学校提供資料を一部加工して掲載。

図3 授業動画から学びを広げた子どもたち

家庭科
マスク作り
保健
トイレ掃除の布作り
※動画

家庭科で、授業動画を見ながらマスクを製作。

国語
※動画
筆教

国語の授業動画で、漢字の部首について学習。

学習後、姉弟で漢字辞典を見ながら部首を当てるクイズを出し合った。

図工
※動画
社会

図工の身近な素材を使った創作活動の動画を見て、折り紙に挑戦。

自主学習では、掃除用のぞうきんを作ろうと、家にあった雑誌で作り方を調べてノートにまとめ、家の中から材料を集めて縫った。

自主学習では、万華鏡の作り方をインターネットで調べて製作。完成させた後も、さらにきれいに見えるように工夫を重ねた。

* 戸田第二小学校の児童と保護者への取材を基に編集部で作成。

1～4時間目は、教員が作成した授業動画の視聴と、問題を解いたり、作品を製作したりするアウトプットの組み合わせとし、子どもが意欲的に学習に取り組めるようにした。授業動画は約20分間で、主にプレゼンテーションソフトで作成。最初にクイズを出したり、既習内容を振り返ったりして、通常授業と同じように学

習内容への関心を喚起し、子どもが見通しを持って取り組めるようにした。

保護者の声「動画とセットのワークは授業動画に対応した内容で、単に授業動画を視聴するだけではなく、子どもと先生の双方向のやり取りに近い形の学びになっていました。私がそばにいないでも、

毎日自分で動画を見て、目標を決めて学習する子どもの姿に、学校に任せておけば大丈夫と安堵しました」

配信された動画は、いつでも視聴が可能だ。家庭では通常授業のような時間の制約もなく、自分のペースで学習を進められるため、子どもは興味・関心を広げながら学びを進めていた(図3)。

6年生の児童の声「動画の初めには毎回振り返りがあり、前の学習内容を忘れていた時には、その動画を見直してから新しい学習に取り組みました。自分のペースで動画を止めたり、再生したりしながら学習できるのも、動画ならではのよかったです。午後の自主学習の時間も、午前中に見た動画でやりたいなと思ったことに自由に組み合わせて、楽しかったです」

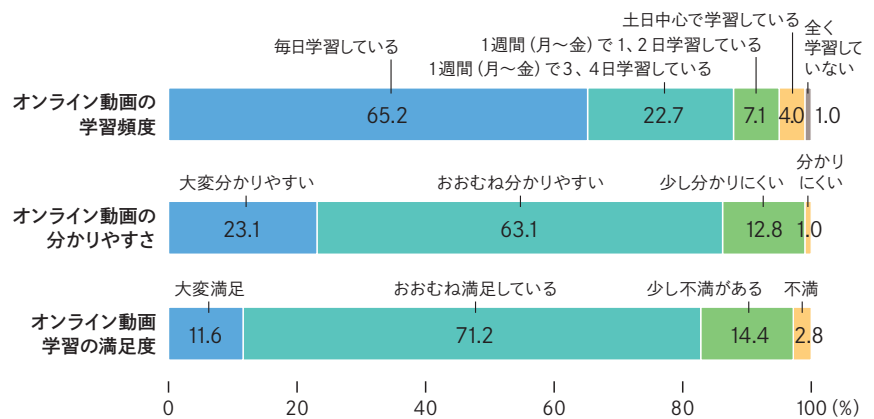
オンライン会議ツールを使った双方向型のTMCは、学級会に相当する時間で、健康観察のほか、事前に伝えたテーマについて1人ずつ発表し、子ども同士をつなぐ場とした。高学年は、臨時休業に入る前の2日間でオンライン会議ツールを体験しており、TMCではチャットに書き込みをしながらクラスメートと交流を深めた。

「保護者には特に依頼をしていませんでしたが、子どものそばで支援するなどの協力をしていただき、スムーズに進めることができました」(山根校長)

学習計画表の活用は、6月の分散登校時にも続けられ、登校日の午後の家庭学習は臨時休業中と同様に、授業動画とアウトプットを組み合わせで行った。そうして配信された授業動画は、1日約3本、合計350本に上った。

保護者の声「自分の知りたいこと

図4 保護者アンケートの結果



通常登校再開後、保護者を対象に、授業動画を使った学習支援に関してアンケートを実施した。
* 戸田第二小学校提供資料を基に編集部で作成。

に気づき、遠回りしながらも自分に引きつけて学ぶ子どもの姿に、これこそが『学び』なのだ実感しました。1人で学べたのは、これまで学校でそうした経験を積み重ねてきたからだと思います。親が干渉しない方が子どもは伸び伸び学ぶのだと、意識が変わりました」

成果と展望

どんな状況でも目的達成に向け全教員で知恵を出し合い考える

通常授業再開後、保護者を対象に、授業動画を使った学習支援に関するアンケートを実施したところ、約8割が満足と回答した(図4)。そして、一度花開いた主体的な姿勢は、今も子どもを学びへと突き動かしている。

保護者の声「新型コロナウイルスの感染者数の推移が棒グラフで示されているのを見て、折れ線グラフとの使い分けに疑問を持った子どもは、自分でインターネットで調べ、その理由に納得してから棒グラフを作成していました。我が子ながら、その姿に感動しました」

臨時休業中に培った経験は、学校再開後、「3密」を防ぐことにも生か

されている。朝会はオンライン会議ツールを利用して各教室で視聴する形とした。今後は、ボランティアによる読み聞かせや保護者会もオンラインで実施する予定である。

オフラインとオンラインを組み合わせ合わせた授業にも挑戦している。例えば、家庭科では、ウイルス感染を防ぐため通常の調理実習を実施できない。そこで、教室と家庭科室をオンライン会議ツールで結び、教員が調理の様子を見せた。帰宅後、子どもは配信された授業の動画を見ながら実際に調理し、その様子を撮影して学習支援ソフトウェアで提出した。

さらに、新型コロナウイルスの感染予防をしながら対話的な学びを実現する工夫を、教員から募集した。すると、オフラインでは座席の位置の工夫や思考ツールを利用した方法、オンラインでは学習支援ソフトウェアなどを活用したアイデアが集まった。それらは冊子にまとめて「T2 New Normal」とし、今後の教育活動に生かしていく。

「確かに今は大変な状況です。しかし、どんな状況にあっても、子どもたちをつなぎ、深い学びを実現するためにはどうすればよいか、皆で知恵を出し合い、議論し、新たな学びをつむいでいきます」(山根校長)